

講義名	研究演習
講義コード	45018
担当教員	井上 定子
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限
備考	

ゼミ

3. 学部ゼミ・学科ゼミ

学部

5. 商学部

学科

演習名

井上定子ゼミナール（国際会計論）

概要説明

井上ゼミは、「国際会計」をテーマとしたゼミです。近年、企業活動のボーダレス化や金融・証券市場のグローバル化が進展する状況のなかで、国際会計の重要性が強く認識されるようになりました。これは企業会計のグローバル・スタンダードを確立することにより、各国の会計制度の相違に基づく財務情報における差異をできる限り狭め、各種利害関係者の意思決定の質を世界的規模で高めようとする時代的要請を背景とするものです。国際会計は、企業会計の国際化の意味と論拠を検討するとともに、各国の会計制度や会計実務の相違を検討すること、さらには連結会計など国際会計に固有の問題を検討するなど広範な学問領域といえます。国際会計を学ぶ準備段階として、研究演習（2年次）では、簿記・会計の基礎を習得します。研究演習（3年次）では、現在の会計問題に関して、研究書、論文そして事例などを通して理解を深めるとともに、主要な問題に関する議論を通じて、卒業論文のテーマを選定する準備を始めます。具体的に卒業研究計画書を作成します。卒業研究（4年次）では、卒業論文に関する研究を進めるための指導と論文作成に向けた指導を行います。

学位

経営学（博士）

教員よりの要望

まず、簿記や会計に関心がある学生であることを切望します。実際に、簿記の勉強をしたことがある、または「基礎簿記」を履修済み、あるいは履修中であることが望ましいと考えます。ただし、日商簿記検定等の資格取得を目的としたゼミではありませんので注意してください。学習意欲があり、自主的にかつ積極的に行動できる学生を希望します。

教員英字氏名

Inoue Sadako

研究室

研究棟 3503研究室

最終学歴

神戸商科大学大学院経営学研究科

主な研究活動・社会活動・研究業績

【主な研究業績】
 共著『国際会計基準制度化論（第2版）』白桃書房，2008。
 共著『IFRS・IAS徹底解説』税務経理協会，2009。
 共著『環境財務会計の国際的動向と展開』森山書店，2009。
 共著『外資換算会計の研究』千倉書房，2010。
 共著『IFRS教育の基礎研究』創成社，2012。
 共著『IFRS教育の実践研究』創成社，2013。
 共著『中小企業の会計制度 日本・欧米・アジア・オセアニアの分析』中央経済社，2015。
 など。
 【社会活動】
 神戸市建設事業外部評価委員（2013年～）
 川西市上下水道事業経営審議会委員（2013年～）

主な卒業論文のタイトル

- ・「会計上の引当金と税法上の引当金について - 貸倒引当金の違い - 」
- ・「戦争による平和とは」
- ・「包括利益について」
- ・「新リス会計基準 - オンバランス化の問題と企業への影響」
- ・「企業結合における国際比較と問題点」
- ・「日本の混合会計基準を考へる」
- ・「減価償却会計と減損会計の比較 - 国際会計基準へのコンバージェンスに向けて - 」
- ・「企業の社会的責任への取り組み - 収益性向上のための効率的CSR活動に向けて - 」
- ・「ブランド資産会計」
- ・「企業結合会計 - 一元化が進む国際動向と日本の立場」
- ・「資本概念」
- ・「退職金給付会計について」
- ・「環境会計とCRS - 各社環境報告書を用いた業種別比較 - 」
- ・「利益調整を考へる」
- ・「税務会計」
- ・「アメリカと日本における病院原価計算の進展についての比較」
- ・「日本における知的資産の認識可能性」
- ・「リース会計の利点と問題点」

趣味・特技

趣味は、絵画、読書、スキーなど。整体やマッサージなどに定期的に通っていることもあり、健康GOODSに関心があります。最近ではハワイ式「ロミロミ」や「タイ古式マッサージ」など、多国籍にわたるマッサージに興味をもつようになりました。また、快眠GOODSにも興味があります。特技は、どこでもすぐに熟睡可能なことです。

所属

商学部 経営学科

所属学会

日本会計研究学会・国際会計研究学会・財務会計研究学会

専門分野

財務会計・国際会計

選考方法

個別ガイダンスの際に、井上ゼミの運営方法について説明させていただきますので、興味がある方は「個別ガイダンス」を必ず受けてください。

担当科目

国際会計論・財務会計・簿記原理・基礎簿記など

備考

ゼミ生から後輩たちへ

評価方法

研究演習（2年次）および研究演習（3年次）は、ゼミ活動に対する参加意識（出席頻度・議論への貢献度・ゼミ行事への参加態度等）と提出課題の内容で評価します。卒業研究は、卒業論文への取り組み方とその完成度で評価します。